

平成24年度 第1回奈良県営競輪あり方検討委員会 議事録

I 開催日時

平成24年9月20日（木）午後3時00分～5時00分

II 開催場所

奈良県営競輪場・飛天交流館

III 出席者

委員：粕井委員(委員長)、石黒委員、岡村委員、里見委員、松岡委員

事務局：浪越産業・雇用振興部長、村上産業・雇用振興部次長、
大月地域産業課長、加藤競輪場場長、村本競輪場次長、
田中地域産業課課長補佐、仲澤競輪場総務課長、
小山田競輪場事業課長、その他地域産業課職員

IV 議 事

1 産業・雇用振興部長挨拶及び開催趣旨説明

現在は県営競輪をやり出してからかなりきびしい状況になりつつあり、車券売上では300億円を記録したピーク時より約3分の1に落ちている。今現時点で赤字を1億2,200万円かかえている。昨年度の単年度収支は少し黒かなというかたちになったが、累積赤字を解消するまでに至っていない。

過去にも平成12、13年当たりで赤字となった時期があったが、その時に第1回目の経営検討委員会というのを立ち上げ、歳出面の改善ということで努力をしてきたかなと思っている。こういう車券売上の減少傾向の中で、競輪場としてどうしていけばいいのかということで、昨年まで同じ経営検討委員会を開催し、昨年11月に報告書というかたちで、国の制度改正を見据えて経営改善期間を確保し、改めて存続の可否を判断するという答申をいただいた。

しかしながら競輪場も開設以来かなり老朽化してきており、耐震診断も今年度やることにしている。その結果も踏まえて今後県営競輪の方向性を議論していただくということの必要性を感じ、今回改めて県営競輪のあり方検討委員会というかたちで立ち上げをさせていただいた。

国の方ではJKA交付金率の改善、払戻率の75%を70%に引き下げるとか、そういった議論もある。また選手数も削減するというので、いろんな取組がなされているけれども、そういった中で将来収支を見通しながら、今後施設の老朽化とかそういった諸条件を踏まえながら、どちらの方向に進むのかということも踏まえて、議論をいただきたい。

2 委員長の選任

奈良県営競輪あり方検討委員会設置要綱第4条に基づき、委員の互選により粕井

委員長を選任する。

3 会議の公開・非公開

他の委員会等に準じて原則公開とされたが、議事の進行によっては非公開とするべき事情が生じる可能性もあるので、その際は改めて会議に諮り、公開することとされた。

4 議題

(1) 奈良競輪の現状について

(2) 奈良県営競輪あり方検討委員会の今後の進め方について

事務局より資料に基づいて説明があった。

今の段階では各委員質問、意見等は特にないようであるが、委員長より本日の詳細な説明から理解できる部分もあり、また細かな部分を確認させていただかなければいけない部分もあるので、この資料を我々持ち帰り、中身を勉強して改めて事務局にそれぞれ質問し、必要な資料請求等のうえ現状の問題点をしっかり把握することからスタートさせていただきたいということであった。

大月課長：それでは第1回目の委員会はこれで終了させていただく。第2回目の開催については、先ほどの説明にもあったが12月を予定している。具体的な日時についてはまた調整させていただくこととする。

浪越部長：一度にたくさんの説明をさせていただいて非常に申し訳ないと思うが、先ほど委員長の方から言われたように、いろいろ疑問もあるだろうし、こんな資料はないのか、こういったものが必要ではないかという意見等をどんどん言っていただきたい。こちらの方も窓口を決めて対応させていただきたいと思う。先ほど言ったように不透明な部分である耐震であるとか、ガールズケイリン、春日賞等の収支の部分、また売上の減少の要因であるとか、そういった部分も含めて質問いただければ、我々の方で精一杯答えさせていただいたうえで、次の委員会の方へ臨ませていただければと思う。

閉会終了